

梶田隆章主任研究員、文化勲章を受賞

東京大学宇宙線研究所長でKavli IPMU主任研究員を兼ねる梶田隆章さんが平成27年度文化勲章受賞者の一人に選ばれ、2015年11月3日に皇居における親授式で天皇陛下から文化勲章を親授されました。文化勲章は「我が国の文化の発達に関して顕著な功績のあった者に対して授与される勲章」とされています。



梶田隆章さん

鈴木洋一郎、梶田隆章両主任研究員、2016年基礎物理学ブレークスルー賞を受賞

2015年11月9日、アメリカのブレークスルー賞財団がニュートリノ振動の研究に貢献した5つの実験（日本のスーパーカミオカンデ、カムランド、K2K及びT2K、カナダのSNO、中国のDaya Bay）に対し、各実験を主導してきた研究者及び研究チームへ2016年基礎物理学ブレークスルー賞を授与すると発表しました。基礎物理学ブレークスルー賞は、宇宙の謎の解明のため研究を行い人類の知の開拓に深く貢献したとされる物理学者を対象とする賞です。スーパーカミオカンデ実験からは、実験を主導した梶田隆章さんと鈴木洋一郎Kavli



鈴木洋一郎さん

IPMU主任研究員、および代表的な成果とされる論文の著者全員を含む研究チームが受賞者に選ばれました。

立川裕二科学研究員、2016年物理学ニューホライズン賞を受賞

同じく2015年11月9日、アメリカのブレークスルー賞財団が2016年物理学ニューホライズン賞受賞者を発表し、東京大学大学院理学系研究科准教授で



立川裕二さん

Kavli IPMU科学研究員を兼ねる立川裕二さんが受賞者の一人に選ばれました。基礎物理学ニューホライズン賞は、基礎物理学において重要な貢献をしてきた将来有望とされる若手研究者へ贈られる賞です。立川さんの受賞理由は超対称な場の量子論において傑出し且つ洞察力に優れた研究を行ったこととされ、例えば2010年に発表したアルディ・ガイオット・立川予想によって場の量子論や超弦理論の研究の進展に大きく貢献したことが評価されました。

柏キャンパス一般公開

2015年10月23日、24日の2日間、東京大学柏キャンパス一般公開「輝く科学、柏から」が開催されました。

Kavli IPMUでは研究棟の大講義室を会場に、初日に高田昌広教授による講演「宇宙のダークサイドーすばるHyper Suprime-Camが探る宇宙」、2日目に鈴木洋一郎主任研究員による講演「地下から探る宇宙の謎ーダークマターを捕まえようー」および難波亮研究員と9月にKavli IPMUで滞在制作（Artist in Residence）を行った現代美術作家の野村康生さんによる科学与芸術の共通性に関する対談が行われました。その他、2日間の企画として野村さんのArtist in Residence成果展、パネル展示によるKavli IPMUの研究紹介、数学パズル、研究棟ツアー、

Kavli IPMUの研究者の著作を展示した「わたしと図書館2015」、カリフォルニア大学バークレー校教授でKavli IPMU客員上級科学研究員を兼ねる野村泰紀さんとKavli IPMUが監修した日本語字幕付き映画「Particle Fever」の上映を実施しました。

2日間の来場者数は、梶田隆章さんのノーベル物理学賞受賞決定直後とあって例年を大幅に上回り、キャンパス全体で10,000人を越え、Kavli IPMUには3,700人以上が訪れました。



高田昌広さんの講演



鈴木洋一郎さんの講演

カブリ賞受賞者一般講演会開催

2015年10月31日に東京都港区の品川コクヨホールにおいて、カブリ財団、ノルウェー科学人文アカデミー、駐日ノルウェー王国大使館、及びKavli IPMUの主催による「2015カブリ賞受賞者一般講演会」が開催されました。村山斉Kavli IPMU機構長が司会を務め、カブリ財団のロバート・コン理事長らの挨拶の後、まず2014年カブリ賞（ナノサイエンス）受賞者のストラズブル大学教授トーマス・エベセン博士が「光と金属と小さな穴がもたらした驚異の発見」と題してナノサイエンスに関する講演を行い、続いて2014年カブリ賞（天体物理学）受賞者のマサチューセッツ工科大学教授ア

ラン・グース博士が「インフレーション宇宙論—この宇宙は唯一の宇宙なのか?」と題して宇宙論に関する講演を行いました。同時通訳つきで行われたこの講演会は、400名の会場がほぼ満席となる盛会でした。



左からコン理事長、グース教授、村山機構長、エベセン教授

Kavli IPMU / ICRR 合同一般講演会 「見えない宇宙を観る」開催

2015年11月22日に東京大学本郷キャンパスの小柴ホールで、「見えない宇宙を観る」を主題に今回で13回目となるKavli IPMUと東京大学宇宙線研究所共催の一般講演会が開催され、中学生を含む170名が参加し、会場は満席となりました。

はじめにKavli IPMUのカイ・マルテンス准教授が「暗黒物質 —ミステリー、イマジネーション、チャレンジ」と題して、暗黒物質が存在するという証拠が示された歴史的経緯の解説、現在唱えられている主だった説の紹介、そして自身が取り組むXMASS実験について解説しました。続いて宇宙線研究所の林田将明特任助教が「ガンマ線で見えるダイナミックな宇宙」と題して、ガンマ線を使った観測で見る宇宙や現在開発中のCTA（チェレンコフ望遠鏡アレイ）プロジェクトについて解説しました。

その後の「世界に1つの手作り装置」と題した2人の講師の対談では、現在の実験を中心とした研究生生活を目指すようになったきっかけや、これまで行ってきた研究の紹介、お互いが現在携わっている装置について意見交換を行いました。最後に行われた講師を囲んだ懇談会は、講師に直接質問をする

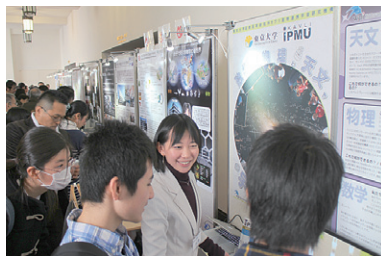
ことのできる貴重な機会とあって大変な盛り上がりみせ、閉会となりました。



カイ・マルテンスさん(左)と林田将明さん(右)

第5回 WPI 合同シンポジウム「実感するサイエンス」

2015年12月26日、京都大学吉田キャンパスの百周年時計台記念館において第5回世界トップレベル研究拠点プログラム (WPI) 合同シンポジウム「実感するサイエンス」が開催されました。WPI合同シンポジウムは次代を担う高校生を対象に最先端の科学とその魅力を伝えるために毎年行われています。今年も京都大学物質・細胞統合システム拠点 (iCeMS) が運営を担当し、研究者3名による講演に加え、山極壽一京都大学総長の特別講演も行われました。その他、講師らによる研究ノートテーマとしたパネルディスカッションも実施されました。Kavli IPMUはWPIの他8拠点と共にブース展示を実施し、高校生を含む来場者の方に機構の紹介を行いました。



高校生で賑わう展示ブース

サンタクロースがどんぐり保育園にやってきた

2015年12月18日に柏キャンパスに設置されているどんぐり保育園でクリスマス会が行われました。今年は

Kavli IPMUのケビン・パンディ助教がサンタクロースとしてどんぐり保育園を訪れ、園児と楽しい一時を過ごしました。



サンタクロース姿のケビン・パンディさん

人事異動

昇任

Kavli IPMU 助教の阿部知行さんが2016年1月1日付でKavli IPMU准教授に昇進されました。



阿部知行さん

転出

次の方々が転出しました。[括弧内はKavli IPMU 在任期間です。]

Tanmay Deshpande さん [2012年11月1日 - 2015年11月30日]、Kavli IPMU 博士研究員からインドのタタ基礎科学研究所数学研究科Reader (准教授) へ。

Kai Schmitz さん [2012年11月1日 - 2015年10月31日]、Kavli IPMU 博士研究員からマックスプランク原子核研究所博士研究員へ。

Benedetta Vulcani さん [2012年10月16日 - 2015年10月15日]、Kavli IPMU 博士研究員からメルボルン大学物理学博士研究員へ。